

国語科の研究概要（1年次）

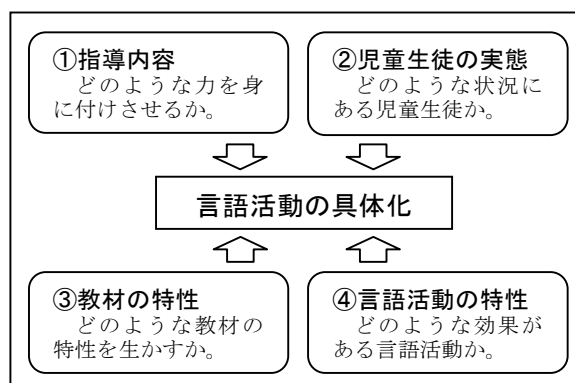
1 国語科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

(1) 「言語活動の充実」の捉え方

「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」を一層重視した国語科の授業改善に向け、学習指導要領に示す言語活動例を基に、児童生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付けて指導事項を指導する。

(2) 言語活動を具体化する際の要素

単元の目標に基づき、言語能力を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を育成するためには、右のような四つの要素を考慮して、言語活動を具体化していくことが大切である。その際、「ここで音読する」「ここで話し合う」といったばらばらの活動ではなく、児童生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。



【言語活動を具体化する際の要素】

(3) 言語活動を具体化する手順

学習のねらいの達成につながる効果的な言語活動を行うために、次のような手順を踏まえて計画を立てる必要がある。なお、このステップの順序は、先に述べた言語活動を具体化する際の要素を踏まえ、弾力的に捉えて具体化することも考えられる。

ステップ1 単元で指導する指導事項の確認
<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間指導計画から、単元で指導する指導事項を確認する。 ○ 学習指導要領の指導事項と単元の学習のねらいとの関連を明確にし、単元の目標を設定する。
ステップ2 身に付けさせたい力の具体化と重点化
<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導事項を分析し、具体的にどのような力を身に付けさせる必要があるのか（どのようなことができる、分かるようになればよいのか）を明確にする。 ○ 本単元で重点的に指導する内容を決める。
ステップ3 児童生徒の実態の把握
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習に対する関心・意欲・態度について把握する。 ○ 身に付いている（いない）言語能力を把握する。 ○ これまで経験した言語活動を把握する。
ステップ4 教材の分析と補助教材・資料・教具等の選定
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書教材を中心に、学習の目標達成に適切な教材を選定する。 ○ 教材文の分析を行い、その特性を把握する。 ○ 学習の効果を高める補助教材・資料・教具等の選定を行う。
ステップ5 効果的な言語活動の設定
<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動例の具体化を図る。児童生徒の実態に応じて、例示された活動以外の言語活動も工夫する。 ○ どのような言語活動が「身に付けさせたい力」につながるかを検討する。
ステップ6 指導計画の作成
<ul style="list-style-type: none"> ○ ステップ5までの内容を基に、単元の指導計画を作成する。 ○ 指導計画を基に、1単位時間の学習計画を立てる。 ○ 学習に必要なワークシートを作成したり、発問、板書の計画を立てたりする。

2 国語科における「思考・判断・表現」の評価

(1) 国語科の評価の観点について

小・中学校国語科の観点は、これまで同様に「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」の5観点を設定して、次のように示されている。

【小学校】

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

【中学校】

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

高等学校国語科の観点は、次のように「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」の5観点である。

【高等学校】

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

(2) 「思考・判断・表現」の観点について

国語科においては、学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を、学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けている。

(3) 評価の具体的な進め方

ア 評価の焦点化

(ア) 評価の観点の焦点化

単元の評価規準を設定する際、どの単元でも一律に五つの評価の観点すべてを設定するのではなく、育てたい能力を明確にするために、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」については、当該単元で指導する領域に応じて対応する観点を取り上げて設定する。(例1) 領域を複合させて単元を構成する場合は、取り上げる領域に応じて観点を設定する。(例2)

【例1】「読むこと」領域の単元の評価の観点の設定

○国語への関心・意欲・態度 + 読む能力 + 言語についての知識・理解・技能

【例2】「読むこと」と「書くこと」を複合させた単元の評価の観点の設定

○国語への関心・意欲・態度 + 読む能力 + 書く能力 + 言語についての知識・理解・技能

(イ) 単元における評価する時期の焦点化

設定した評価規準を単元の学習のどの時期に評価するのか焦点化することは、1 単位時間の学習活動のねらいを明確にすることにつながる。

中学校第2学年「豊かな言葉を味わおう」の評価規準例

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 人間の自然へのかかわりについて、筆者の考えをもとに自分なりの考えをもとうとしている。	① ことばの効果的な使い方を理解し、短歌を鑑賞している。 ② 短歌の句切れや調子など、短歌の特徴に注意して読んでいる。 ③ 短歌に込められている情景や心情、それを表現している語句の意味や方法を踏まえて、鑑賞文を書いている。	① 意味の切れ目や調子に注意して、短歌を朗読している。

それぞれの評価規準に基づいた評価方法を、単元の指導計画に位置付ける

時	主な学習活動	指導上の留意点 【評価規準 (評価方法)】
1	単元の導入の段階で、「単元の学習課題」を設定する。	【国語への関心・意欲・態度① (観察)】
2		【読む能力① (観察)】
3	単元の展開の段階で、「単元の学習課題」を解決していくとともに「単元を貫く言語活動」を支える学習活動を行う。	【言語についての知識・理解・技能① (ワークシート)】
4		【読む能力② (ワークシート)】
5		【読む能力② (観察)】
6		【読む能力② (ワークシート)】
7	「思考・判断・表現」について重点的に評価する場を設定する。	【読む能力③ (ワークシート)】
8		【国語への関心・意欲・態度① (観察)】

各時間の学習活動が、単元を貫く言語活動とどのような学習活動とどのような学習計画を立てる。

単元の展開の段階で、「単元の学習課題」を解決していくとともに「単元を貫く言語活動」を支える学習活動を行う。

「思考・判断・表現」について重点的に評価する場を設定する。

例えば、「読む能力②」の学習につなげるために必要な「言語についての知識・理解・技能」を位置付ける。

イ 「判断基準」の設定について

「思考・判断・表現」の評価については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、教科の内容等に即して思考・判断したことを、言語活動等を通じて評価するものである。

しかし、児童生徒の言語活動を評価する際、「どのような要素で、思考・表現等をみるのか」「どの程度の状況を見取るのか」が明確でないと評価が難しい。そこで、評価規準に基づき

「思考・判断・表現」の学習状況をより分析的に表した「判断の要素」及びその要素を具体化した「判断基準」を設定し、評価と指導に生かすことにした。

【判断基準設定の手順】

- 1 単元を貫く言語活動を通して育てたい言語能力を明確にし、それに基づいた評価基準を設定する
- 2 各観点ごとの評価をバランスよく実施することのできる指導計画を作成する。
- 3 単元の目標に基づき、児童生徒が最も思考力・判断力・表現力を発揮すべき時間について、判断の要素、判断基準（B）を設定する。
- 4 判断基準を満たす表現例を、児童生徒の実態に応じて想定する。
- 5 指導を特に必要とするC状況の児童生徒に対する具体的な手立てを記入する。その際には、B状況の判断基準・表現例が指導のポイントとなる。
- 6 「おおむね満足できる」B状況を基に、「十分満足できる」判断基準（A）を設定し、B状況にある児童生徒への手立てを設定する。

【判断基準の具体例】

評価基準（「思考・判断・表現」）	
○ 読む能力③	
・ 短歌に込められている情景や心情、それを表現している語句の意味や表現技法を踏まえて、鑑賞文を書いている。	
思考、判断に基づく表現内容（評価の対象）	
○ 生徒が選択した短歌について作成した鑑賞文	
判断の要素	
ア 時・場・人	イ 語句の意味
ウ 表現技法の効果	エ 解釈した内容の表現
尺度	判断基準
B	ア 設定された時・場・人について解釈している。 イ キーワードを挙げ解釈している。 ウ 反復法、句切れ、体言止め、倒置法などの表現技法を指摘し、その効果を踏まえて解釈している。 エ 解釈した内容を適切な語句や文末表現等を使って表現している。
	【予想される生徒の表現例】 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ（俵万智） この短歌は、冬の屋外で、恋人同士か仲の良い友達同士が会話している様子を詠んでいるのだろう。「寒いね」と気軽な感じで話しかけていることや、それに同じ言葉で答えていることから、思いを共有し合っている仲の良い二人の関係がよく表現されている。また、「寒い」と「あたたかさ」という対照的な言葉を使うことで、二人の心の中の「あたたかさ」がより伝わってくる気がする。
C状況生徒への指導	判断基準Bを基に、着目する語句、表現技法の効果など、前時までに学習した短歌の特徴や鑑賞の仕方などを振り返らせながら補充指導を行う。
尺度	判断基準
A	・ 「句切れ」の有無による効果について触れている。 ・ 詠まれた時代背景を踏まえて解釈している。 ・ 歌に対する自分なりの評価を書いている。など
B状況生徒への指導	判断基準Aの状況にある生徒の作品について交流させたり、判断基準Aの内容に関する問いかけを行ったりしながら深化指導を行う。

平成23年度調査研究発表会
第1分科会（国語科）研究発表

「思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究」

鹿児島県総合教育センター

第1分科会（国語科）研究発表の内容

- 国語科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動
 - 「言語活動の充実」の捉え方
 - 単元を貫く言語活動を具体化する際の要素
 - 単元を貫く言語活動を具体化する手順
- 国語科における「思考・判断・表現」の評価
 - 国語科の評価の観点について
 - 「思考・判断・表現」の観点について
 - 評価の具体的な進め方
 - 評価の焦点化
 - 評価の観点の焦点化
 - 単元における評価する時期の焦点化
 - 判断基準の設定
- 国語科の研究成果と課題

1 国語科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

(1) 「言語活動の充実」の捉え方

言語活動の充実 思考力・判断力・表現力の育成

国語科では

目的 実生活で生きて働き、各教科等の基本ともなるべき国語の能力を育成する。

内容 実生活に必要とされる言語活動を、学校や児童生徒の実態に応じて工夫し、充実を図る。

学習指導要領の内容(2) **言語活動例**

小 日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論など

中 社会生活に必要とされる発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評など

(1) 「言語活動の充実」の捉え方

例:「ごんぎつね」を読んで感想交流会をひらこう

目的は? → 学習のねらいの達成

「ごんぎつね」を読んで感じた「ごん」と「兵十」の気持ちを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。

「読む能力」の育成 → 適切な評価規準の設定

(1) 「言語活動の充実」の捉え方

例:「ごんぎつね」を読んで感想交流会をひらこう

単元の指導計画	
指導過程	学習活動
つかむ みとおす	単元の学習課題として感想交流会を設定する。
しらべる ふかめる	各場面での読みにおいて、一言感想を書く。
まとめる いかす	交流相手を意識して感想を書き、交流会をひらく。

単元を貫く言語活動

「読む能力」の育成

(2) 単元を貫く言語活動を具体化する際の要素

① 指導内容
どのような力を身に付けさせるか。

② 児童生徒の実態
どのような状況にある児童生徒か。

③ 教材の特性
どのような教材の特性を生かすか。

④ 言語活動の特性
どのような効果がある言語活動か。

7

(3) 単元を貫く言語活動を具体化する手順

※ ○番号は、単元を貫く言語活動を具体化する要素

ステップ1 単元で指導する指導事項の確認 ①

ステップ2 身に付けさせたい力の具体化と重点化 ①

ステップ3 児童生徒の実態の把握 ②

ステップ4 教材の分析と補助教材・資料・教具等の選定 ③

ステップ5 効果的な言語活動の設定 ④

ステップ6 指導計画の作成

8

2 国語科における「思考・判断・表現」の評価



9

(1) 国語科の評価の観点について

【小・中学校】

国語への 関心・意 欲・態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語につ いての知識・ 理解・ 技能
----------------------	-------------	------	------	-----------------------------

【高等学校】

関心・意 欲・態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理 解
--------------	-------------	------	------	-----------

10

(2) 「思考・判断・表現」の観点について

国語科における「思考・判断・表現」の評価

国語への 関心・意 欲・態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語につ いての知識・ 理解・ 技能
----------------------	-------------	------	------	-----------------------------

思考・判断・表現と基礎的・基本的な知識・技能を合わせて評価する観点として位置付け

単元を貫く言語活動を通じて評価する観点

11

(3) 評価の具体的な進め方

ア 評価の焦点化

(ア) 評価の観点の焦点化

(イ) 評価の時期の焦点化
(単元において)

イ 判断基準の設定

12

ア 評価の焦点化

(ア) 評価の観点の焦点化

どの単元でも一律に五つの観点全てを設定するのではない。

例【「読むこと」の領域の単元】

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
--------------	------	-----------------

↓

育成したい言語能力の明確化

13

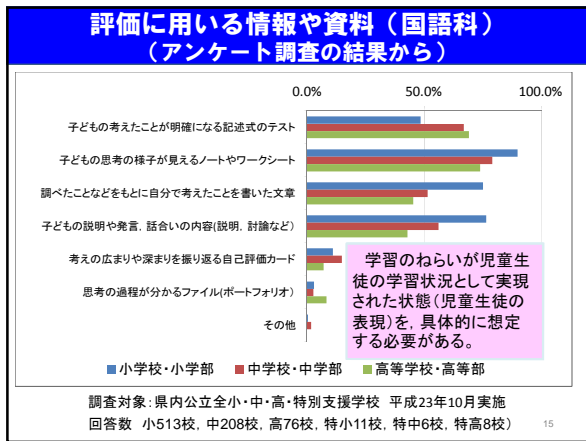
ア 評価の焦点化

(イ) 評価の時期の焦点化(単元において)

評価規準 → 指導計画

時	主な学習活動	指導上の留意点【評価規準(評価方法)】
1	最も思考力・判断力・表現力が発揮される時間	【国語への関心・意欲・態度①(観察)】
2		【読む能力①(行動の観察)】
3		【言語についての知識・理解・技能①(配述の分析)】
4		【読む能力②(配述の分析)】
5		【読む能力②(行動の観察)】
6		【読む能力②(配述の分析)】
7		【読む能力③(作品の分析)】
8		【国語への関心・意欲・態度①(観察)】

14



イ 判断基準の設定

思考・判断・表現の評価 ~ 言語活動を通じて

評価規準

↓

判断の要素

↓

判断基準

- ・ (B)の設定
- ・ 表現例の想定
- ・ (A)の想定

評価規準を満たす言語表現の要素

判断の要素を基に、達成状況を具体的に示した尺度

16

【例: 中学校第2学年「豊かな言葉 短歌を味わおう」】

短歌に込められている情景や心情、それを表現している語句の意味や表現技法を踏まえて、鑑賞文を書いている。

評価規準

↓

判断の要素

↓

判断基準(A)

- 句切れの有無による効果の違い
- 詠まれた時代背景
- 短歌に対する自分なりの評価

↓

判断基準(B)

- 設定された時・場・人の解釈
- キーワードを挙げた解釈
- 表現技法の効果を読み取った解釈
- 適切な語句や文末表現等を使った表現

予想される生徒の表現例

(B)の状況の例
この短歌は、冬の屋外で、恋人同士か仲の良い友達同士が会話している様子を録んでいるのだろう。「寒いな。」と気軽な感じで話しかけていること、…(後略)

17

イ 判断基準の設定

判断の要素

↓

判断の要素

【例: 中学校第2学年「豊かな言葉 短歌を味わおう」】

評価規準 → 判断の要素

短歌に込められている情景や心情、それを表現している語句の意味や表現技法を踏まえて、鑑賞文を書いている。

時・場・人

語句の意味

表現技法の効果

解釈した内容の表現

18

